

環境保全への取り組み-ホテルニューオータニ東京

中国農業大学学生代表

見学日時：2016年12月6日（火） 10:00-11:30

見学場所：ホテルニューオータニ東京



見学概要

最終日、私たちは3日間宿泊したホテルニューオータニを見学した。自らの宿泊体験を通じ、私たちはすでに同ホテルの豪華さや規模の大きさを体感していた。こうした高級ホテルにおける資源処理量は非常に大きなものであり、この日の見学は同ホテルのエコ型資源利用への取り組みの紹介であった。

私たちの見学内容は以下の4つ：



一つめは、ホテルの自家発電施設である。スタッフの案内の下、私たちは地下三階の発電施設を訪れた。発電施設が地下深くにあることで騒音の影響を効果的に減らしている。当施設はガスを主要燃料としており、ホテルの3分の1の電気使用量を賄っている。ホテルがこうした自家発電施設を持つことで、経費を節約できる他、緊急時の予備電源とすることができる。この他、私たちは神棚が作業場に置かれていることに気が付いた。祀られているのは火の神で、火災等の災害が発生しないよう祈願している。こうしたところにも日本の神道文化が示されている。



二つめは、廃水の再利用システムである。ホテルの厨房廃水はパイプラインを通り処理池に集まる。そしてまず廃水内の異物をろ過し取り除き、その後活性汚泥中の微生物により廃水中の有機質を処理する。この時廃水は茶色である。最後に沈殿と殺菌をし、再利用可能な水となり、上水(飲用可能)、中水(トイレ用)、下水(灌漑用)に分けられる。同システムでは毎日約2000トンの水を処理している。この他、ホテルには16基の木製タンクがあり、各タンクは90ト



ンの水を貯めることができる。これらのタンクには殺菌作用があり、このタンクの中の水は直接飲用が可能である。日本の水道水は直接飲用可能で、どのようにそうした基準を満たしているのか私たちは非常に興味深かったが、今回見学したホテルの水処理システムは私たちを啓発するものであった。

三つめは、生ごみを利用した化学肥料の製作である。昔ホテルニューオータニでは、毎年ごみの焼却に3500万円の経費が掛かっており、高コストと同時に環境汚染も招いていた。しかし同ホテルではその後約1億1000万円を投じ生ごみから農業用有機肥料をつくる設備を構築し、その後4年間で投資分を回収し、環境保全と同時に完成した化



学肥料を農家へ提供している。

四つめは、ローズガーデンである。ローズガーデンはホテルニューオータニの屋上スペースにあり、30種類以上のバラで構成されている。花々の間に立つと、清々しい気分になり、暫しこの鉄筋に囲まれた都市を離れ、自然の豊かさを感じることができる。ローズガーデンで使用する化学肥料の一部はホテル内の生ごみをもとに作られたもので、農業学の見地から見ると、ホテルニューオータニは生物から腐植質そして生物という物質の循環を実現しており、持続可能な発展の理念に符合している。日本は非常に緑化を重視している国であり、屋上のローズガーデンは観賞用としてだけでなく、空気の浄化作用もあり、また室内の温度を調整する効果もあるなど、生態環境の改善に重要な意義を有している。

知っていますか？

問:ホテルニューオータニの成り立ちについて

答:ホテルニューオータニの歴史は1962年に始まった。当時日本政府は2年後の東京オリンピックを控え、約3万名の外国人観光客を受け入れるという目標を掲げて大規模な建設を行っていた。ホテルニューオータニの創始者である大谷米太郎は、皇居近くの紀尾井町に最高のホテルを建設することに同意し、これにより日本における旅行業の発展に大きく貢献した。

感想

3日間の宿泊体験により、私たちはホテルニューオータニの整った設備やきめ細かなサービスといったものについて印象を深めたが、最終日の見学によって私たちは同ホテルについてより理解を深めることができた。ホテルニューオータニは、小型の都市システムに近く、私たちが見学した部分はまるで一頭の巨大な灰色の獣がこの都市の地下に静かに住みついているようで、またそれは常に動き続ける心臓のように、この小さな生態システムのサイクルを動かすために止まることを知らない強大なエネルギーを届けているように感じられた。

スタッフの案内の下、私たちはまずホテルの使用電力の30%を賄う発電ユニットを見学した。こうした天然ガス発電は従来の方法よりエコであるだけでなく、緊急時におけるホテルの電力供給を保証することができ、ゲストへのより快適な環境の提供につながる。例えば、2011年の東日本大震災の後、東京では計画停電等の節電措置が採られ、多くの企業がその影響を受ける中、ホテルニューオータニは自身の発電システムにより、ホテルの通常運営を保証し、計画停電の影響を全く受けなかったのである。

ホテルの污水处理システムは廃水の循環再利用を実現している。廃水はパイプラインを通じ処理池に集められ、ろ過により廃水中の異物を取り除き、その後活性汚泥中の微生物の働きにより廃水中の有機質を処理する。そして最後に沈殿と殺菌によりトイレの洗浄や灌漑に利用可能な水が生まれる。沈殿物も捨てることはせず、更なる処理を経て肥料やタンパク質素材に変わる。廃棄物を利用可能なものに変えるという考え方はこの污水处理において十分に体現されている。ここではまたホテルの貯水設備である大型の木製タンクを見かけた。こうした伝統的な除菌方法を使うことで自然の力を発揮し、水資源の二次汚染を防いでいる。

固形ごみの処理場内で私たちは大きな樽に入った生ごみが処理設備に運び込まれる様子を見かけた。紹介によると、ここでは毎日5トンの生ごみが処理されている。まず、蒸気処理により生ごみ内の水分を20%に下げ、その後堆肥工場で3ヵ月間の発酵処理を行い、最後に有機肥料として農家に提供される。その見返りとして、農家は割安な価格でホテルに高品質の野菜や果物を提供している。こうした一連のプロセスにより、ホテルはごみ処理費用を節約だけでなく、食品の買い入れコストも減らしている。全設備には1億1000万円が投入されたが、その後の4年間でこれらの投資をすべて回収している。

朝食時に眺めることができる庭園であれ、あるいは屋上のローズガーデンであれ、ホテルの緑化への取り組みは印象深かった。ローズガーデンは屋上の緑化を極限まで高めたもので、都市のヒートアイランド現象を隔絶できるだけで

なく、結婚式場にもなる魅力が存在している。

ホテルニューオータニは設立当初から、「複合エネルギー型ホテル」という目標の実現に努めており、ゲストの要望を満たすと同時に環境への配慮と持続可能な発展にも力を入れている。そこで我が国のホテル業界の発展について目を移すと、ゲストへの完璧なサービスを追及すると同時に、ホテルは都市の生態システムの一部として担うべき相応の社会的責任についても考えるべきではないだろうか？環境保全は責任であるが負担ではなく、一種の質実で健康的な、天を敬い、人を愛する生活のあり方で、同時に一種の効果的な節約、収入獲得のモデルでもある。資源環境の犠牲の上に収益をあげることはほとんどの業界の初期段階における共通した弊害であり必ず通過する過程であるが、こうしたモデルの上に成り立つ収益はボトルネックに到達すると、それ以降成長を続けていくことは難しいのである。水平方向の最適化、ひいては基本に立ち返るという流れは今後より明らかになり、産業構造の転換、企業文化の構築、社会教育、付帯する体制の改革は今後必然的なものになる。ホテルニューオータニの発展理念は、我が国の多くの企業にとって次の段階の発展における模範そしてビジョンとなるべきである。